

「東北六魂祭」への在京外交団の招待

7月17日(日)、外務省では、東日本大震災の際に被災地に救助チーム等を派遣した国に謝意を表明するとともに、元気になりつつある東北地方を理解・発信、支援していただく観点から、仙台市で開催された「東北六魂祭」に関係国の駐日大使等を招待し、タイ、トルコなど8カ国13名の大使らが参加しました。

当日の仙台市は東京とほぼ変わらない真夏日でしたが、外交団は東北を代表する6つの祭(青森ねぶた祭、秋田竿燈まつり、盛岡さんさ踊り、山形花笠まつり、仙台七夕まつり、福島わらじまつり)が次々と大通りを練り歩くパレードを視察し、迫力ある竿燈や巨大なわらじ、華やかな衣装を身にまとった踊り等に歓声をあげ、祭の醍醐味を味わっている様子でした。



青森ねぶた祭(仙台市撮影)

祭視察後には奥山仙台市長と懇談を行い、奥山市長からは震災に際する各国からの支援への御礼と今後の復興への決意、東北は安全でビジネスも復旧していることを是非発信してほしい旨発言がありました。

外交団からは、東北への応援の言葉とともに、今回この祭に参加し、東北が元気に立ち上がっている様子を直接感じ取ることができた、日本が元気であること、東北にもっと観光・ビジネスに来て欲しいことを本国政府に伝えたいなどの発言があり、懇談は終始和やかに行われました。



仙台市奥山市長との懇談

その後、津波による大きな被害を受けた名取市を視察し、市の担当者から震災被害の状況及び今後の復興計画の説明を受けました。津波によって建物や市場、公共施設などが跡形もなく壊滅した様子に、一同静まりかえっていましたが、多数の具体的な質問があり、東北の復興計画や同計画の基礎となる防災の考え方について大きな関心を持っている様子が伺えました。



名取市視察